



仲間とのつながり

理事 鈴木 康之



今期より改めまして理事を務めさせていただくことになりました。青年委員会の委員長時にお受けして以来の理事となります。会員園の皆さまのために微力ながらお力になればと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

青年委員会の時は委員長時も含め、東京の先生方はもちろん全国の多くの先生方と知り合う機会をいただき、ともに学びともに悩みと大変な時もありましたが、楽しい時を過ごしてまいりました。よく「園長は孤独だ」と言いますが、自身が副園長を経ていざ園長になるとその言葉の重みを実感します。園を運営していく上での安全性、保育の方針や方向性を決めるのはもちろん、行事や職員の確保・育成、地域や団体との関わりなどその職責は多岐にわたり、決断を下す場面が多く葛藤することもあり、保育界全般についても待機児問題が一定の解消が見られる中、定員未充足問題や変わらぬ保育士不足など課題も多くあります。

こども家庭庁が発足して間もなく1年になろうとする中、「子どもまんなか社会」に向けて保育にとっても大きな転換点を迎え、これからも多くの課題が出て来ることでしょう。そんな中やはり大切なのはともに歩む仲間の存在です。保育という命を預かるこの仕事の重みはなかなか他業種の人には分からない苦労があります。その苦労を分かちあえるのが諸先輩方であり仲間たちであります。保育の内容については各園それぞれの方針や進め方がありますが、様々な問題・課題には共通のことも多く、アドバイスをいただいたり、一緒に話し合っ解決策を探るなどする中で、決して孤独ではないことを実感します。同じ区内でも様々ですが、それが東京、そして全国へと広がっていく中で各地域の実情・課題も知ることができ、そのつながりの中で学んだことを自園の職員へと伝えていくことで、現在の最新の東京の保育の、そして自園の保育の置かれている現状を職員とも共通して理解することができます。子どもの成長が止まることがないように我々も日々前を向いて進んでいかなければなりません。

青年委員会や様々な団体活動で、時に園を空けることもありますが、それ以上に自身に、そして園に返ってくるもの、返せるものもとても多くのものがあります。今回理事を務めさせていただく中で、理事として青年委員会の担当にもなりました。私の役割は、この活動を通して学んできた多くのことを次世代の保育を担う若者たちに伝えていくことだと思っております。保育の素晴らしさ、大切さはもちろん、ともに歩む仲間がいることの素晴らしさや大切さも伝えていければと思っております。

その青年委員会が、今年9月に全国私立保育連盟の青年会議の東京大会を実施いたします。まさにその準備に追われているところですが、仲間と考えて行動し、仲間と協力し合う姿を見ていると懐かしくそして少しうらやましくも思います。こうしてできる絆やつながりがあれば、これからも訪れるであろう様々な困難な状況も乗り越えられるものと思っております。

保育は人と人とのつながりです。園児や保護者、職員だけでなく支え合える仲間がいるとすべてのつながりの大切さや意味が分かる気がします。全国規模の大きな研修大会を実施するという機会はなかなかありません。これを機に青年委員会の活動に参加してみようと思う方が増えれば幸いです。

とはいえ私もまだまだ気持ちの若さは負けなつもりでいます。青年委員会の活動に刺激を受けながら、自身も成長できるよう進んでまいりたいと思っております。どうぞ皆さまよろしくお願い致します。